



エコール・ド・パリ最盛期、独創的な表現を掴みかけながらも夭折した洋画家夫妻の足跡をたどる回顧展

- 夭折した洋画家夫妻、その鮮やかな作品世界の全貌を約240点で一望
- 藤田嗣治も認めた!生粋のモガ、板倉須美子による純真な作品も
- 1920年代パリに生きた日本人画家の姿を浮き彫りに

会 期 2024年4月6日(土)―6月16日(日)

開館時間 10:00―18:00(金・土曜日は20:00まで)※入場受付は閉館の30分前まで

休 室 日 4月15日(月)、5月7日(火)、20日(月)、6月3日(月) ※第1月曜日は休館日

観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:35134)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて1月5日まで販売(1月6日以降は当日券販売)。

◎ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18:00以降は観覧料半額

◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館 特別協力 松戸市教育委員会 後援 一般社団法人板倉鼎・須美子の画業を伝える会

同時開催 「両洋のまなざし 石井光楓」

※「板倉鼎・須美子展」チケットでご覧いただけます。

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。

展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧いただけます。

2024年4月5日(金)14:00～(13:30-開場) / 8階展示室にて

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。

展覧会概要

板倉鼎（いたくらかなえ・1901-29）は埼玉県北葛飾郡旭村（現在の吉川市）の生まれ。幼い頃より松戸市に過ごし、県立千葉中学校で堀江正章に学びました。1919年（大正8）東京美術学校西洋画科に進み、在学中に早くも帝展への入選を果たします。1925年（大正14）、ロシア文学者昇曙夢の長女須美子（すみこ・1908-34）と与謝野鉄幹・晶子夫妻の媒酌により結婚。翌年須美子とともにハワイ経由でパリに留学しました。須美子は鼎の影響により、1927年（昭和2）頃より油彩画を手がけています。

パリでは斎藤豊作や岡鹿之助と親しみ、アカデミー・ランソンでロジェ・ビシエールに学びました。そして穏やかな写実的スタイルを脱し、簡潔な形と鮮烈な色彩による詩的な構成に新境地を拓き、1927年にはサロン・ドートンヌに初入選しました。

一方須美子は、ホノルルの風物を純真な筆致で描き、やはり同展で初入選。当時の評判は、鼎よりもむしろ高かったといいます。鼎は以後も精力的に制作を続け、須美子をモデルに、あるいは窓辺の静物に取材して多くの佳作を残しますが、1929年（昭和4）に惜しくも28歳で客死しました。ふたりの娘たちも、須美子も相次いで亡くなっています。早世したため評価の機会を逸しましたが、パリで確立した斬新・華麗な作風により、近年評価が高まっています。須美子の油彩画もまた、そのまっすぐで明らかな造形が注目されています。

千葉市美術館では、2021年（令和3）に、板倉鼎のご遺族より鼎の作品33点をご寄贈いただく機会に恵まれました。本展はこれを記念して、鼎と須美子を長く顕彰してきた松戸市教育委員会の全面的なご協力のもと、ふたりの画業を総覧します。代表作を網羅するとともに書簡などの資料を展観し、夫妻の軌跡と作品世界の全貌を浮き彫りにします。

本展の見どころ

●パリに生きた洋画家夫妻、その鮮やかな作品世界の全貌を約240点で一瞥

1920年代後半のパリに留学し、独創的な作品を残したものの20代の若さで相次いで世を去った画家、板倉鼎・須美子夫妻。千葉市美術館では2021年にご遺族から板倉鼎の作品33点の寄贈を受けました。このことを記念し、本展では約240点からふたりの作品世界の全貌を紹介。志半ばで世を去ったふたりの、短いながらもひたむきで清らかな、また自身のオリジナリティを模索し続けた軌跡を展観します。

●いまだ知られざる夭折の画家、板倉鼎

板倉鼎は小学校時代から絵を描くことを好み、旧制千葉中学校で洋画家堀江正章のもとで油彩画に取り組みました。その後、東京美術学校に入学、同じく堀江正章の弟子であった岡田三郎助に学びます。東京美術学校同期の岡鹿之助とは、留学したパリで深い信頼関係を結びました。在学中に帝展に連続入選するなどの活躍を見せ、須美子と結婚後、ホノルル経由でパリへ留学。それまでの写実的なスタイルから脱却、若手芸術家の登竜門であるサロン・ドートンヌやサロン・デ・ザンデパンダンなどに入選しました。パリでの制作は2年半と短いものの、独自の表現をつかんだ静物画や、妻の須美子をモデルとした連作が印象的です。わずか28歳でこの世を去った鼎が、どのように自らの芸術と向き合い進化したか、ぜひ作品を通じてご覧ください。

●藤田嗣治も認めた生粋のモガ、板倉須美子

ロシア文学者昇曙夢の長女として生まれた須美子は、与謝野鉄幹・晶子夫妻や石井柏亭等によって創設された自由で文化的な文化学院に設立と同時に入学。若くして洋服に断髪という姿でのびやかに育つなど生粋のモガ（モダンガール）でした。鼎との結婚後、自ら「芸術家の天国」と呼んだパリで新しい芸術に刺激を受け、創作活動を始めます。その純真で独特な魅力を持った画風は当時パリ画壇で鼎よりも好評だったともされ、藤田嗣治も評価していました。本展では須美子の代表作とも言える「ベル・ホノルル」シリーズなど約30点をご紹介します。

●1920年代パリに生きた日本人画家の姿を浮き彫りに

本展ではふたりの作品だけでなく、日本の家族にあてた書簡やパリで撮影された写真を展示することで、一時は藤田嗣治を頂点に数百人の日本人画家がしのぎを削っていたというエコール・ド・パリの日本人画壇の空気も浮かび上がらせ、1920年代後半のパリに生きた日本人画家という、日本近代の洋画を考えるうえで普遍的なテーマを丁寧に深堀りします。また、板倉夫妻とパリで生まれた長女を撮影した貴重な動画も上映します。



板倉鼎《休む赤衣の女》1929年頃 個人蔵（松戸市教育委員会寄託）



板倉須美子《午後 ベル・ホノルル12》1927-28年頃 松戸市教育委員会蔵



1928年、長女カズ誕生の記念写真

短文テキスト例

100字

1920年代後半パリに留学し、現地の展覧会に入選するなど精力的に制作していた板倉鼎・須美子夫妻。20代という若さで早世したため評価の機会を逸したふたりの鮮烈で詩情豊かな作品世界を約240点の作品、資料で紹介する。

50字

1920年代パリで才能を評価されたものの、早世した洋画家夫妻、板倉鼎と須美子の作品世界の全貌を紹介する。

20字

早世した洋画家夫妻の作品資料約240点を紹介

■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 板倉鼎《休む赤衣の女》1929年頃 油彩、カンヴァス
個人蔵(松戸市教育委員会寄託)



2 板倉鼎《雲と秋果》1927年 油彩、カンヴァス
松戸市教育委員会蔵



3 板倉鼎《垣根の前の少女》1927年
油彩、カンヴァス 千葉市美術館蔵



4 板倉鼎《金魚》1928年 油彩、カンヴァス
松戸市教育委員会蔵



5 板倉須美子《ベル・ホノルル21》1928年頃
油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵



6 板倉須美子《午後 ベル・ホノルル12》1927-28年頃 油彩、カンヴァス
松戸市教育委員会蔵



7 板倉須美子《ベル・ホノルル24》1928年頃 油彩、カンヴァス
松戸市教育委員会蔵

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1申込について1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行
FAX：043-221-2316
E-mail：isono@ccma-net.jp

| | |
|------------------|---|
| 貴社名： | 媒体名： |
| ご担当者名： | 発行予定日： |
| TEL： | 発行部数： |
| FAX： | 定価： |
| Email： | 掲載予定コーナー名等： |
| 画像到着希望日： 月 日 時まで | 画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ： |

■画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

- 1 板倉鼎《休む赤衣の女》1929年頃 油彩、カンヴァス 個人蔵(松戸市教育委員会寄託)
- 2 板倉鼎《雲と秋果》1927年 油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵
- 3 板倉鼎《垣根の前の少女》1927年 油彩、カンヴァス 千葉市美術館蔵
- 4 板倉鼎《金魚》1928年 油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵
- 5 板倉須美子《ベル・ホノルル21》1928年頃 油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵
- 6 板倉須美子《午後 ベル・ホノルル12》1927-28年頃 油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵
- 7 板倉須美子《ベル・ホノルル24》1928年頃 油彩、カンヴァス 松戸市教育委員会蔵

■「板倉鼎・須美子展」
プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先
ご住所：〒

問い合わせ先
千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8
広報担当：磯野 愛
Tel. 043-221-2311 (代表) /043-221-2313 (直通)
Fax. 043-221-2316
E-mail isono@ccma-net.jp
HP <https://www.ccma-net.jp/>

板倉 鼎

須美子

展

記者レクチャー・内覧会 2024年4月5日(金) 14:00～ 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。
当日はご遺族や本展監修者も来場予定です。

[タイムスケジュール(予定)]

13:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場
14:00～ 担当学芸員より会場にてご説明
14:20～18:00 自由内覧
16:00～17:00 オープニングレセプション(11階講堂)

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316または**E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail
